

上越市第6次総合計画

第5章 土地利用構想

資料2-2

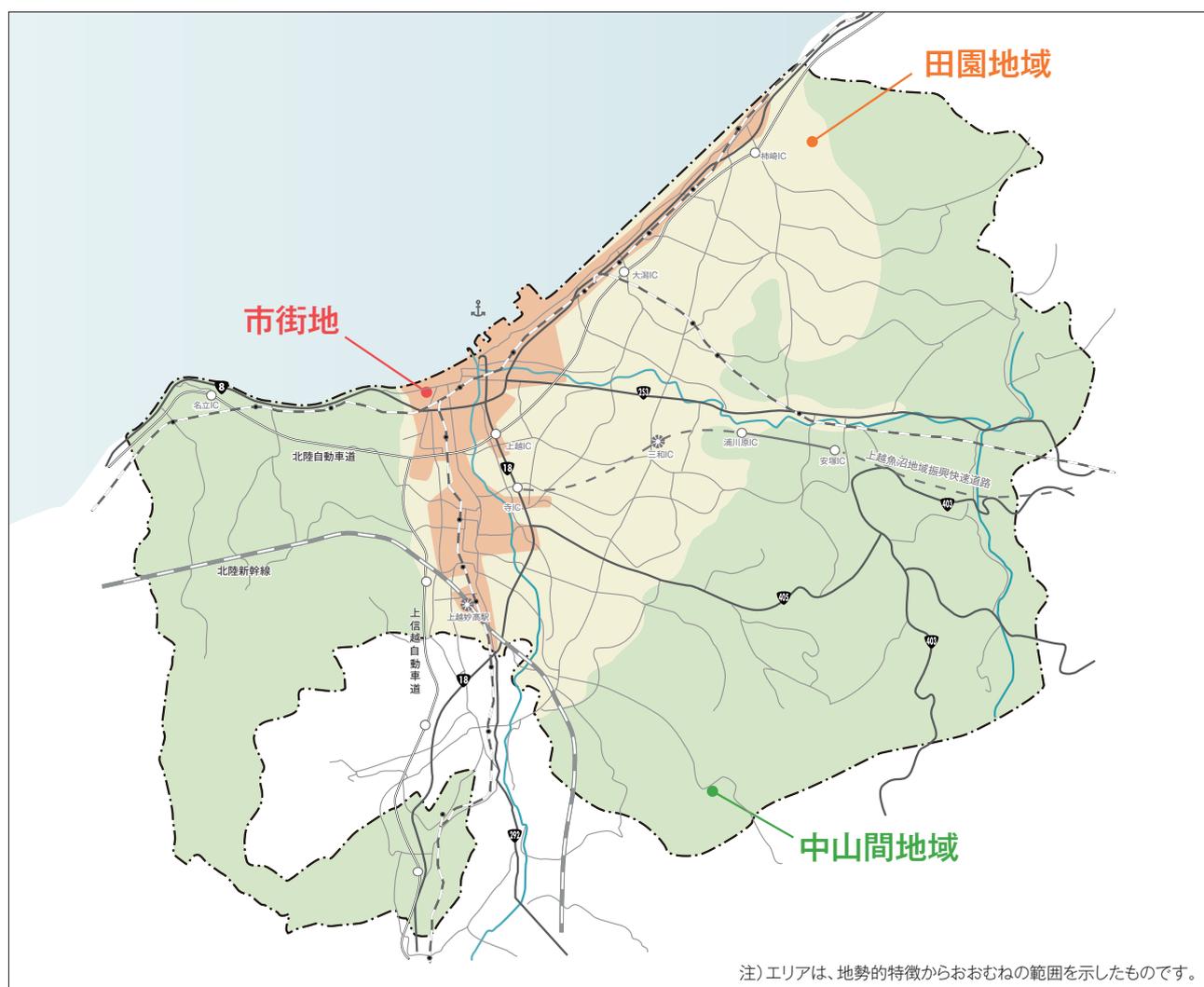
第2節 めりはりのある土地利用（面）

市民のすこやかな暮らしを支え育み、まちの自然や資源を受け継いでいくため、地勢的特徴に応じて市域を「市街地」「田園地域」「中山間地域」に区分し、各地域の特性と役割を踏まえた土地利用を行います。

土地は、人々の暮らしや産業活動などの基盤となる限られた資源であるため、生活環境の向上や自然環境・景観の保全、防災などの視点から、すこやかなまちの形成に向け、市民や事業者などとともに計画的な土地利用を推進します。

これまでに整備された道路や公園、公共施設、建築物などの既存ストックを有効活用しながら、社会経済情勢の変化に対応し、市の持続的な発展を可能とするまちづくりや土地利用を推進します。

《面(エリア)のイメージ》





市街地

○対象地域

- ・既に市街化が進んだ地域または市街化が想定される地域を指します。

○機能

- ・暮らしを支える多様な都市機能⁸を有する地域とします。

○土地利用の考え方

- ・将来の人口減少や社会経済情勢の変化などを踏まえ、市街地の適正な規模を維持します。
- ・社会経済情勢を踏まえた住宅・商業・工業の土地利用の変化や、住民・事業者のニーズを見極めながら柔軟な土地利用を進めるとともに、市街地内で十分に活用されていない土地の解消に努めます。

【住居系の用地】

- ・住居系の用地内に宅地の供給を誘導しながら、市民が安心して快適に生活できる住環境を形成するための基盤整備に努めます。

【商業系の用地】

- ・既存の商業集積地を維持し、魅力を高めるため、地域特性に応じた商業機能の立地を誘導します。

【工業系の用地】

- ・直江津港や高速道路などの交通結節点としての立地特性をいかし、企業の立地を誘導します。

田園地域

○対象地域

- ・市街地に隣接する平坦で農地と集落が分布する地域を指します。

○機能

- ・農業生産機能と生活機能を有する地域とします。

○土地利用の考え方

- ・優良な農地や自然環境、農村部の景観を保全します。
- ・集落地は、農村らしいゆとりある住環境を形成します。
- ・優良な農地は、地域の実情に応じて大規模ほ場などの生産基盤の整備を進めるとともに、農地の集積を進め、農業の生産性を高める土地利用を推進します。

中山間地域

○対象地域

- ・平地の外縁部から山間地に至るまとまった平坦な耕地の少ない地域などを指します。

○機能

- ・水源かん養³⁹や保水・浄水、生態系保全などの様々な公益的機能と生活機能を有する地域とします。

○土地利用の考え方

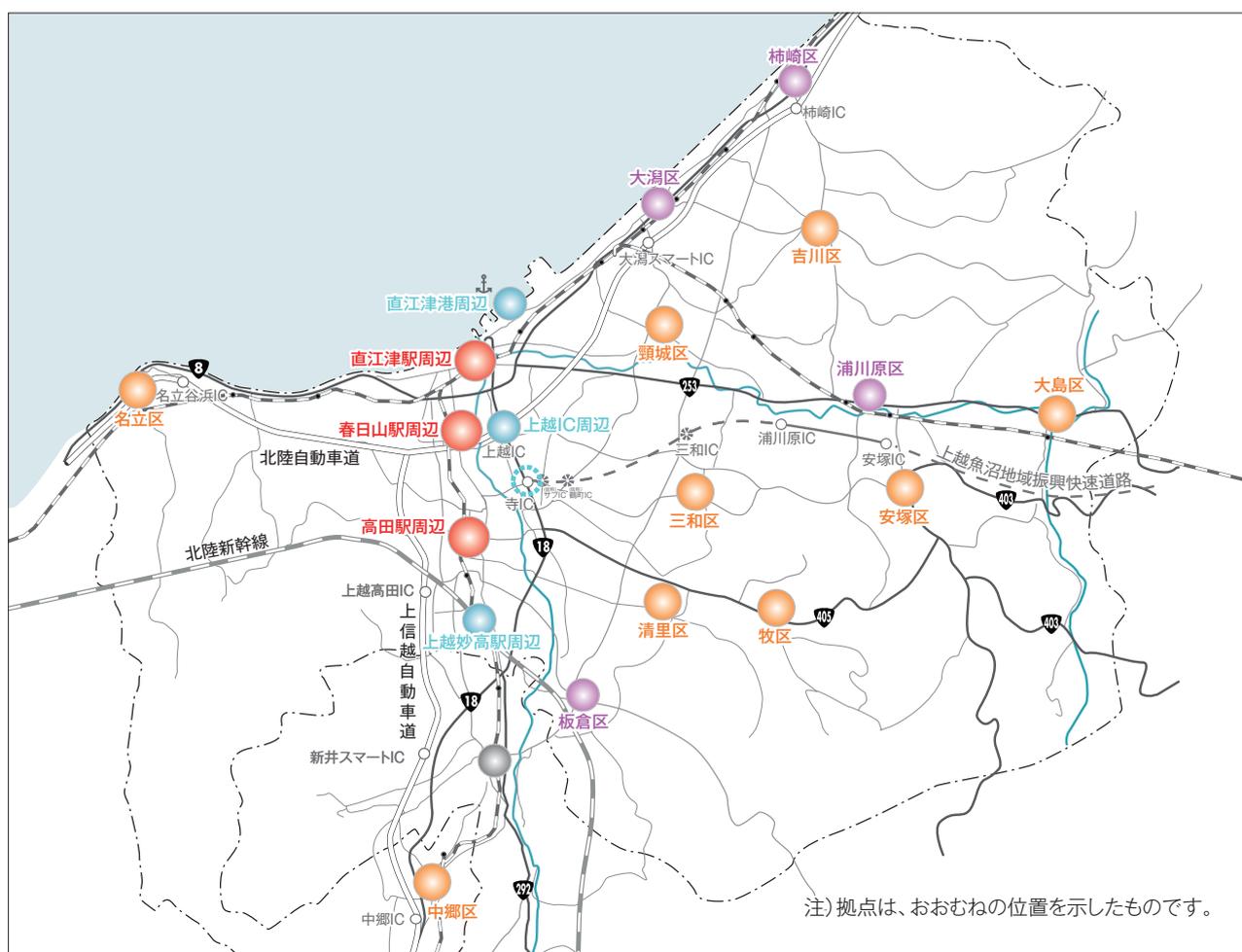
- ・自然環境や景観を保全するとともに、水源かん養などの公益的機能を維持するため、森林の適切な管理と農地の保全を推進するとともに、人や地域の支え合いなどにより中山間地域の暮らしを支援します。
- ・集落地は、自然環境と調和した里山らしい住環境を形成します。

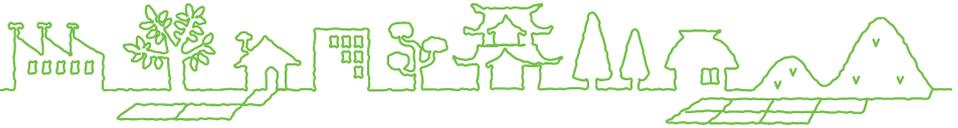
第5章 土地利用構想

第3節 暮らしを支える拠点の構築（点）

市民のすこやかな暮らしを支え育み、まちの求心力の向上を図るため、中心市街地や各区総合事務所の周辺、広域交通の結節点の周辺など、市内外からの求心力を持った安定的な機能集積地を「拠点」と位置付け、拠点が備える機能に応じて「都市拠点」「地域拠点」「生活拠点」「ゲートウェイ」の四つに区分し、暮らしを支える都市機能⁸が集積したまとまりのある拠点の形成を図ります。

《点(拠点)のイメージ》





●拠点の区分・拠点が備える機能

都市拠点 	
対象場所	高田駅周辺、直江津駅周辺、春日山駅周辺
機能	市の中心地として多様な都市機能 ^⑧ が集積し、市内外からの交通アクセスを有する。

地域拠点 	
対象場所	浦川原区、柿崎区、大潟区、板倉区の各中心的エリア(総合事務所周辺)
機能	日常生活に必要な機能に加え、周辺の生活拠点を支える機能が集積し、地区内外からの交通アクセスを有する。

生活拠点 	
対象場所	安塚区、大島区、牧区、頸城区、吉川区、中郷区、清里区、三和区、名立区の各中心的エリア(総合事務所周辺)
機能	日常生活に必要な機能が集積し、地区内外からの交通アクセスを有する。

ゲートウェイ 	
対象場所	上越妙高駅周辺、直江津港周辺、上越インターチェンジ周辺
機能	広域交通が結節し、広域的な人や物の移動の玄関口としての特性をいかした機能を有する。

都市拠点が有する機能	《機能の例》 ○洋服などの買回品を購入する店 ○大型商業施設または商業施設の集積 ○総合病院または医療機関の集積 ○図書館、文化施設、ビジネスホテル、コンベンション施設 など	
	地域拠点が有する機能	《機能の例》 ○スーパー・ホームセンター ○金融機関 ○福祉施設 ○体育施設 など
		《機能の例》 ○生鮮食料品などの最寄品を購入する店 ○行政窓口 ○郵便局 ○農協 ○コミュニティ施設 ○保育所 ○小中学校 ○医療機関 ○公共交通 など
生活拠点が有する機能	日常生活に必要な機能	

第5章 土地利用構想

●拠点の整備の考え方

都市拠点 高田駅周辺、直江津駅周辺、春日山駅周辺

都市的ライフスタイルを可能とする居住環境と当市の経済発展の原動力となる都市機能⁸の集積を図るとともに、市内外からの交通アクセス性を高め、多様な人々や団体が集まり、交流や連携が生まれるにぎわいのある拠点を目指します。



地域拠点 浦川原区、柿崎区、大潟区、板倉区の各中心的エリア（総合事務所周辺）

日常生活に必要な機能に加え、周辺の生活拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、人々や団体が集まり、交流や連携が生まれる拠点を目指します。



生活拠点 安塚区、大島区、牧区、頸城区、吉川区、中郷区、清里区、三和区、名立区の各中心的エリア（総合事務所周辺）

日常生活に必要な機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、人々や団体が集まり、交流や連携が生まれる拠点を目指します。



ゲートウェイ 上越妙高駅周辺、直江津港周辺、上越インターチェンジ周辺

広域交通が結節し、市内から市外へ、市外から市内への広域的な人や物の移動の玄関口としての特性をいかした機能の集積を促進します。



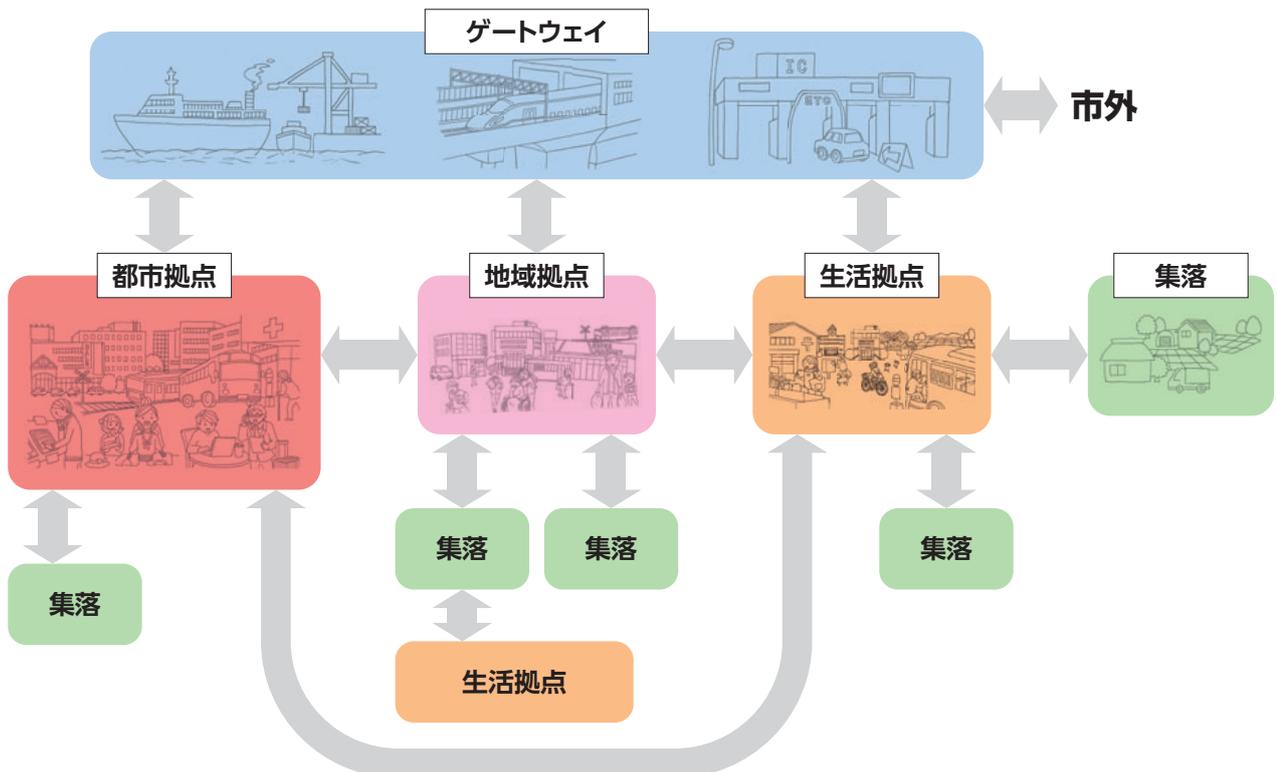
上越魚沼地域振興快速道路³⁵の整備促進により関東・魚沼方面からの新たな玄関口となることが予定される寺インターチェンジ周辺については、今後、道路整備の進捗状況を考慮してゲートウェイとしての位置付けを視野に、それにふさわしい機能を整備・誘導することを検討します。



■各都市拠点の整備の考え方

高田駅周	<ul style="list-style-type: none"> 雁木や寺町などの歴史的なまちなみを有し、多様な都市機能^⑧が集積している特徴を踏まえ、既に集積している都市機能やまちの歴史的価値をさらに高める観点から必要な都市機能の集積や歴史的まちなみの保存・活用を促進します。 また、歴史文化などの地域資源を活用したまちなかの回遊性の向上や、空き店舗などの既存ストックの活用などにより賑わいの向上を図ります。
直江津駅周	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道が結節する交通の要衝としての特徴や、新水族博物館の建設予定を踏まえ、既存の都市機能に加え、商業、交流機能などの立地を促進し、鉄道沿線地域の拠点となるまちを目指します。 また、歴史を感じさせるまちなみや日本海を一望できる景観などの個性的な資源を活用するとともに、近隣にある直江津港の存在を踏まえ、新水族博物館の建設など市内外からの交流促進に寄与する機能の充実を図ります。
春日山駅周	<ul style="list-style-type: none"> 市役所や文化会館などの公共施設が集積している特徴を踏まえ、行政、文化・スポーツなどの都市機能の集積や、上杉謙信ゆかりの春日山への玄関口であることをいかし、文化・交流の拠点となるまちを目指します。

《各拠点の関係性のイメージ》



■各ゲートウェイの整備の考え方

上越妙高駅周	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線の開業による市の新たな玄関口としての特徴を踏まえ、観光やビジネスを目的とした来訪者をもてなすにふさわしい環境整備や都市基盤の充実を図りながら、市内外への円滑な移動を実現する交通結節点としての利便性や広域的な拠点性を高める機能の集積を促進します。
直江津港周	<ul style="list-style-type: none"> 国内外への航路を有し、LNG基地^⑤や火力発電所が立地し、メタンハイドレート^⑦の生産の支援拠点となることが期待される状況を踏まえ、エネルギー港湾としての特長をいかしつつ、物流機能やエネルギー関連産業、製造業等の機能の集積を促進します。
上越インターチェンジ周	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路と国道が接続し、大規模な商業施設や流通業務系の企業が集積している特徴を踏まえ、広域交通ネットワークを活用できる充実した環境をいかし、既存の商業・物流機能の充実を促進します。

令和2年11月24日

地域協議会資料

企画政策課

資料2-3

人口・世帯に関する基礎データ集 (新道区)

平成29年4月改訂
上越市創造行政研究所

■ はじめに（データの定義・出所について）

このデータ集は、各地域自治区における人口・世帯数の概要をご紹介します。過去から現在までの変化や、上越市全体あるいは他の区との比較などを通じて、地域課題や今後の目標・方向性などを考えるための参考資料としてご活用ください。

なお、データの詳細な分析や二次利用などされる場合には、下記に示したデータの定義や出所にご留意ください。

- データの出所は国勢調査が中心であり、補完的に住民基本台帳などを使用しました。
国勢調査のデータは5年おきのため少し古い情報になりますが、実際に住んでいる人の数がわかり、その内訳の把握や全国との比較などにも便利です。
なお、国勢調査と住民基本台帳ではそれぞれ人口の定義が異なるため、値には若干のずれがあります。
- 国勢調査のデータは、2015（平成27）年が最新値です。
ただし、住民基本台帳を用いたデータ（図7・8）は現在集計中であるため、2010年までのデータを用いて作成しました。
- 地域自治区別のデータは、町丁字（住所）単位のデータを合計したものです。
実際の地域自治区は行政区（町内会）単位で構成されているため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と若干のずれがあります。
- 将来推計人口は、あくまでも一つの目安であり、市の公式見解ではありません。
ある仮定条件に基づき比較的簡便な方法で推計した人口であり、実際の人口は今後の諸条件の変化や取組状況によって変わりうるものです。
特に、シナリオ①は最近の傾向が続いた場合の目安であるため、今後の地域づくりにおいてはこの状態を前提と考えるのではなく、シナリオ②で示したような状態を想定して取り組まれることを期待するものです。
- 「年」の定義は、データの種類によって異なります。
国勢調査のデータは10月1日基準であるため、このデータ集における人口増減の対象期間は前年10月～当年9月としています。
統計によっては年度（当年4月～翌年3月）や暦年（1月～12月）を対象期間とするものもありますので、他のデータ集と比較される際はご注意ください。
- このデータ集を加工・編集して二次利用することは避けてください。
引用される場合は、上越市創造行政研究所の作成である旨を明記してください。

人口・世帯に関する基礎データ集（新道区）

目次

1 人口

● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

1 総人口の推移 新道区・上越市（1965～2015）

2 総人口の増減率の比較 市内 28 区（1965-2015）

● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

3 年齢別人口〔3 区分〕の推移 新道区（1985～2015）

4 年齢別人口〔3 区分〕の比較 市内 28 区（2015）

5 年齢別人口（5 歳階級別人口ピラミッド） 新道区（2015）

2 人口増減

● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

6 年齢別にみた人口増減 新道区（2010-2015）

● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

7 転入・転出先別にみた人口増減 新道区（2005-2010）

8 人口動態の比較 市内 28 区（2005-2010）

3 将来推計人口

● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し状況が変わるとどうか？

9 シナリオ① 最近の傾向が続いた場合の人口推移 新道区（～2055）

10 シナリオ② 住宅開発が一段落した場合の人口推移 新道区（～2055）

4 世帯数

● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

11 総世帯数の推移 新道区・上越市（1970～2015）

● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

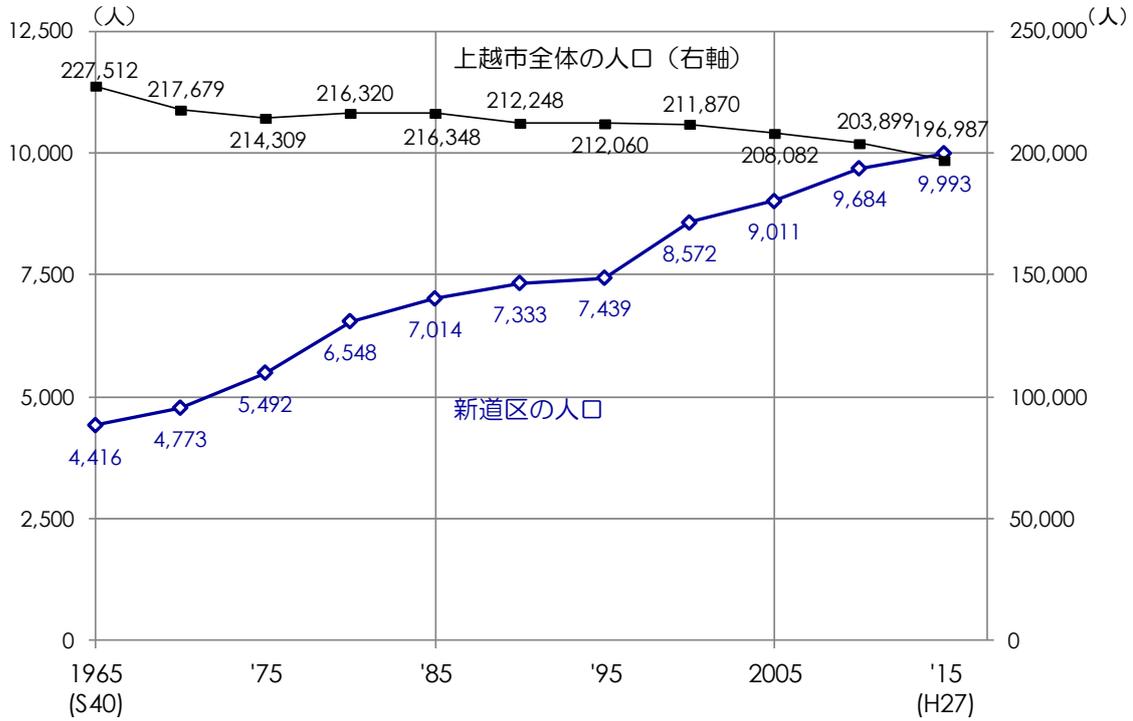
12 世帯構成の推移 新道区（1985～2015）

13 世帯構成の比較 市内 28 区（2015）

1 人口

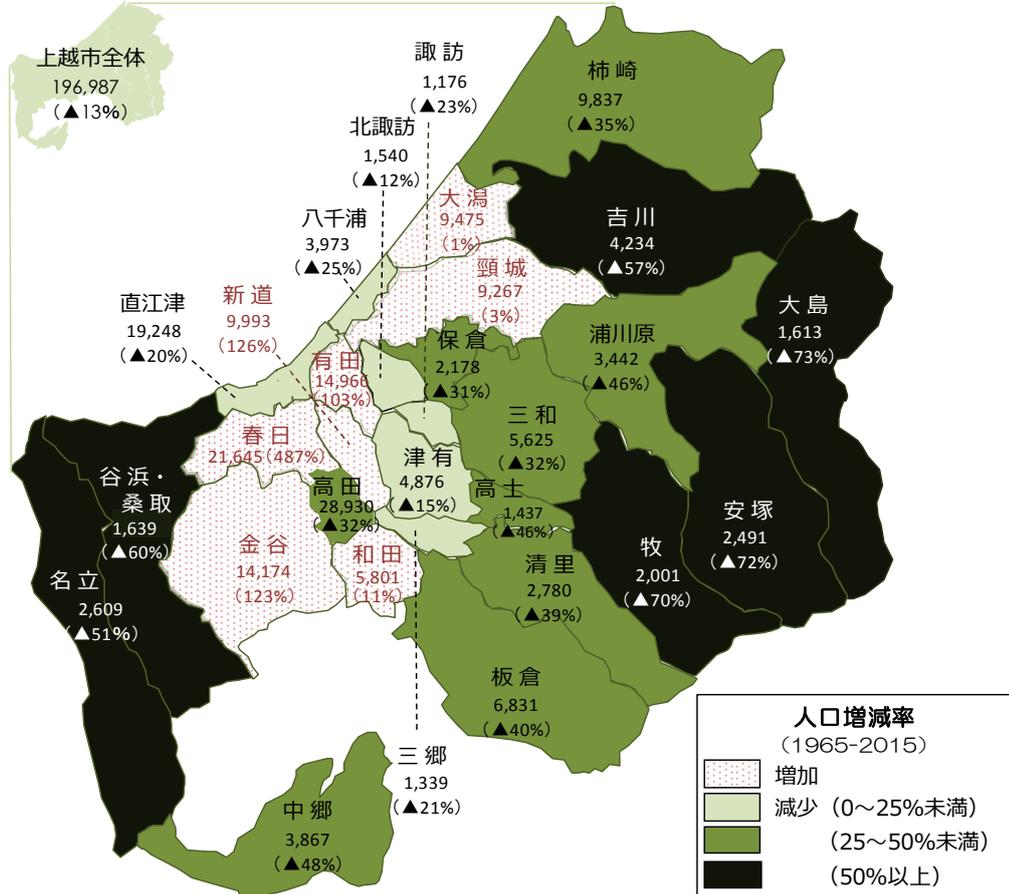
● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

図1 総人口の推移 新道区・上越市 1965～2015



資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

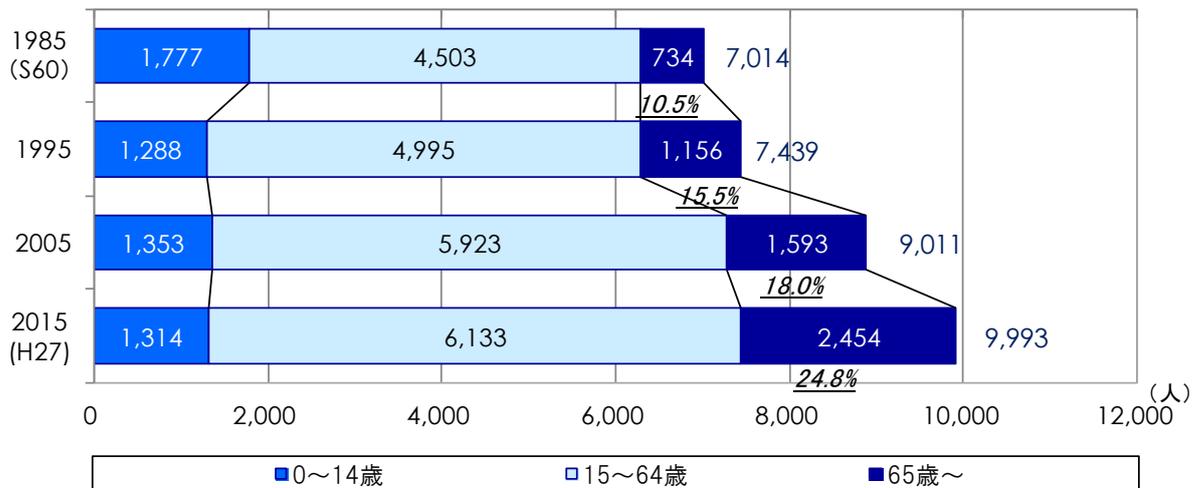
図2 総人口の増減率の比較 市内28区 1965-2015



資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

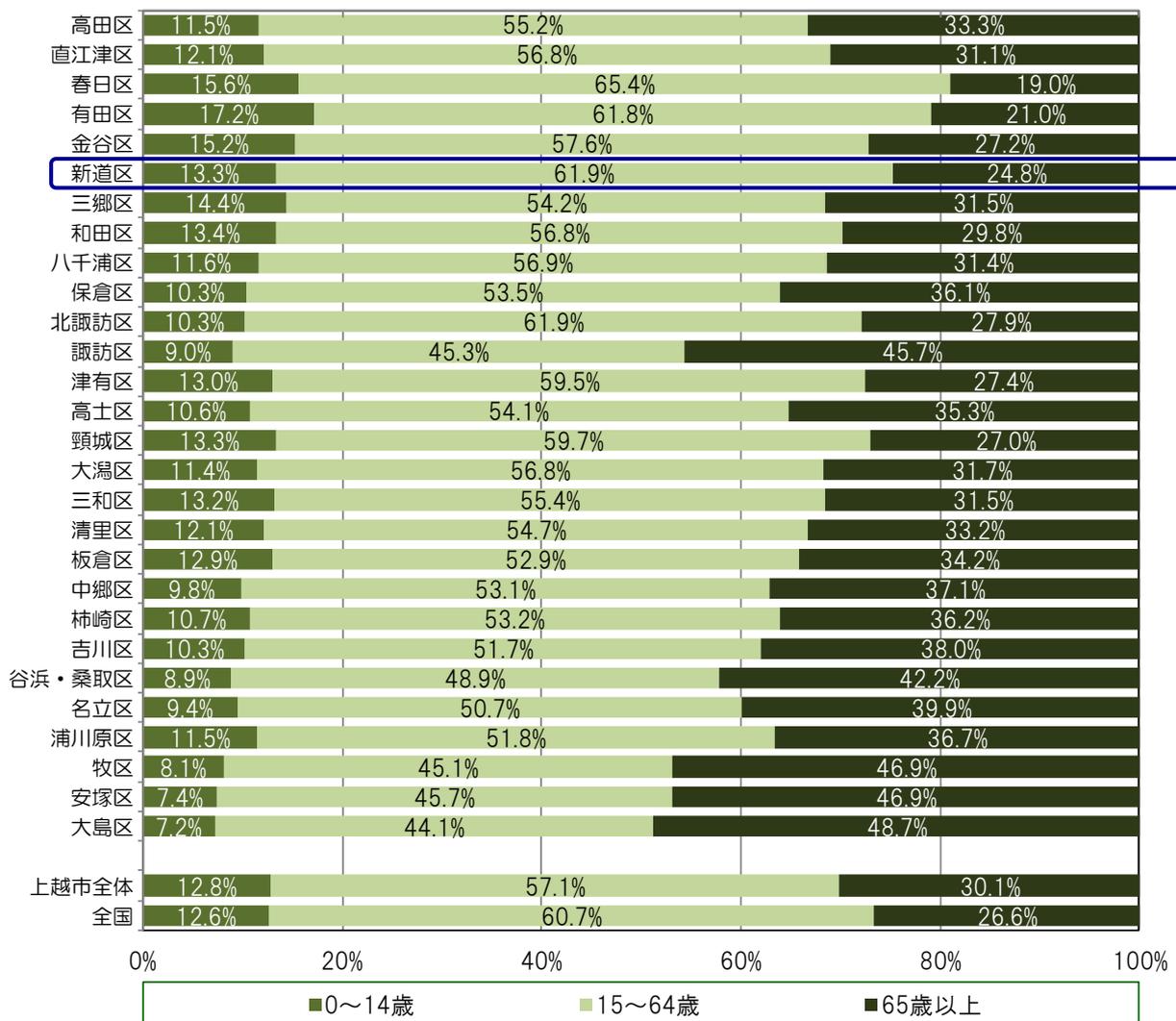
● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

図3 年齢別人口（3区分）の推移 新道区 1985～2015



備考) %（下線表示）は高齢化率。合計値には年齢不詳分を含む。また、集計方法の制約上、数人程度の誤差が生じる場合もある（小地域集計の秘匿計算によるもの）。
 資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

図4 年齢別人口（3区分）の比較 市内28区 2015



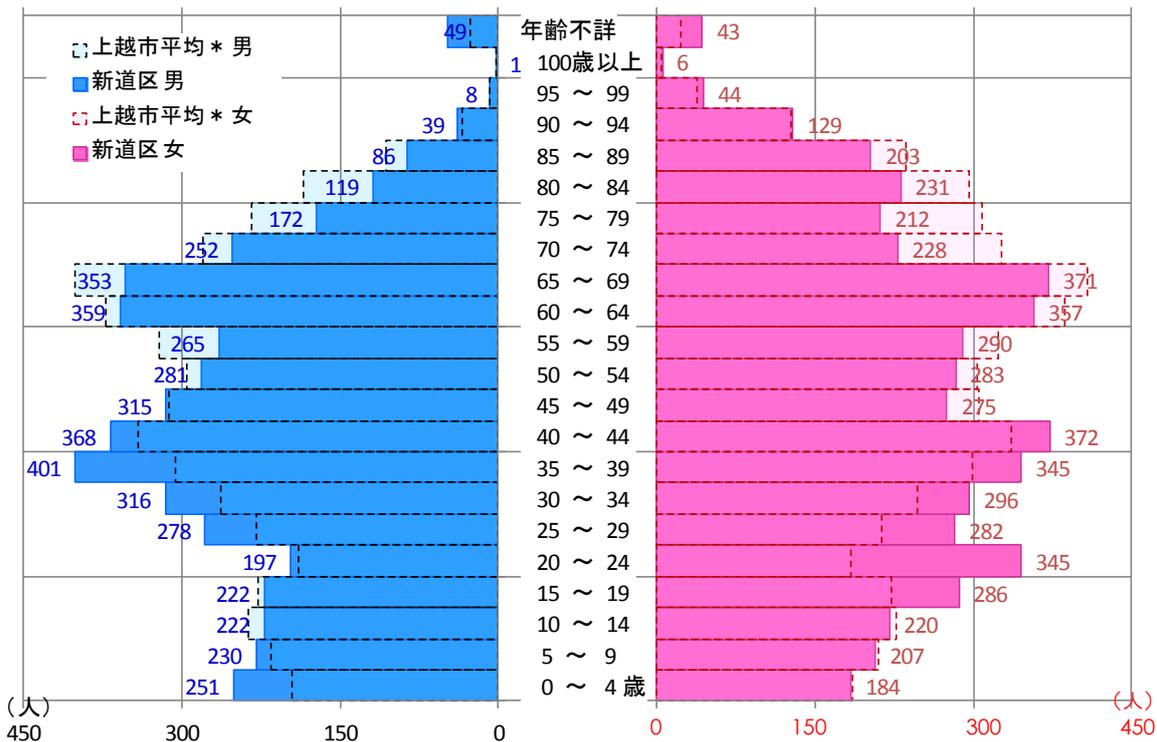
資料) 総務省「平成27年国勢調査」をもとに作成

図5

年齢別人口（5歳階級別人口ピラミッド）

新道区

2015



備考) 上越市平均* は、上越市の人口ピラミッドの形を地域自治体の人口規模に合わせて重ねたもの（年齢別の構成比率が、上越市平均に比べて高いか低いかを見るためのもの）
資料) 総務省「平成27年国勢調査」をもとに作成

2 人口増減

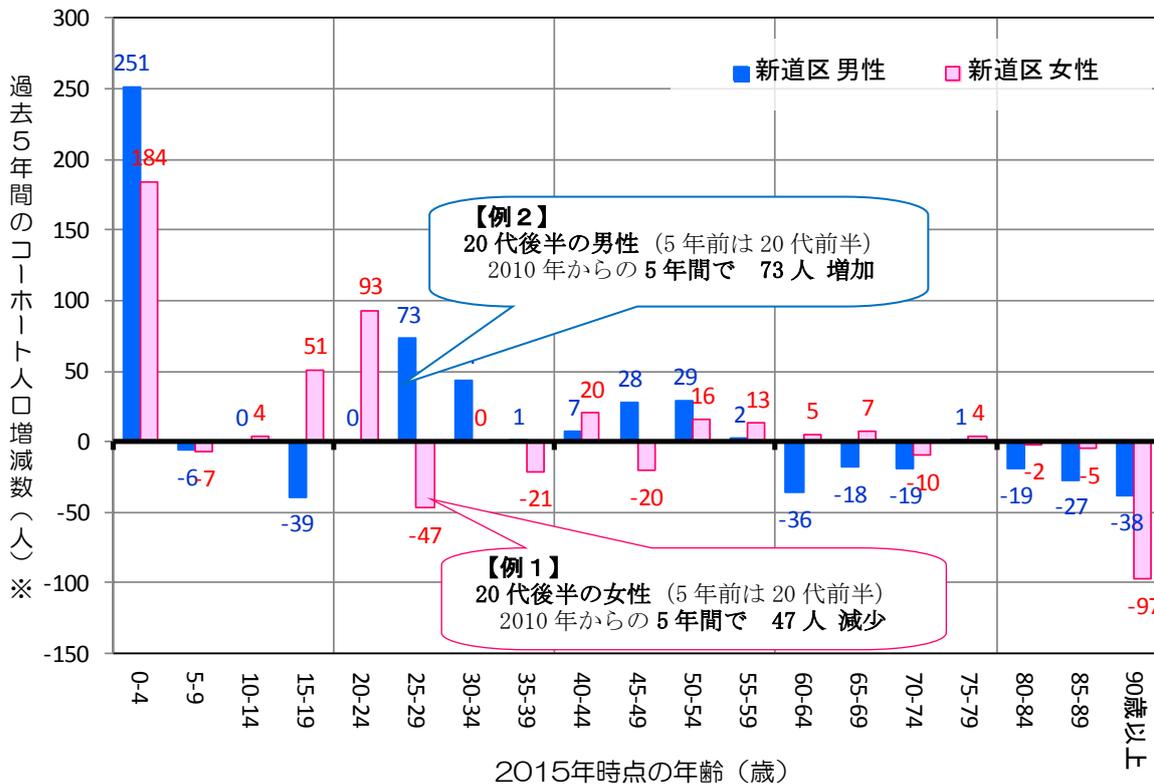
● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

図6

年齢別にみた人口増減

新道区

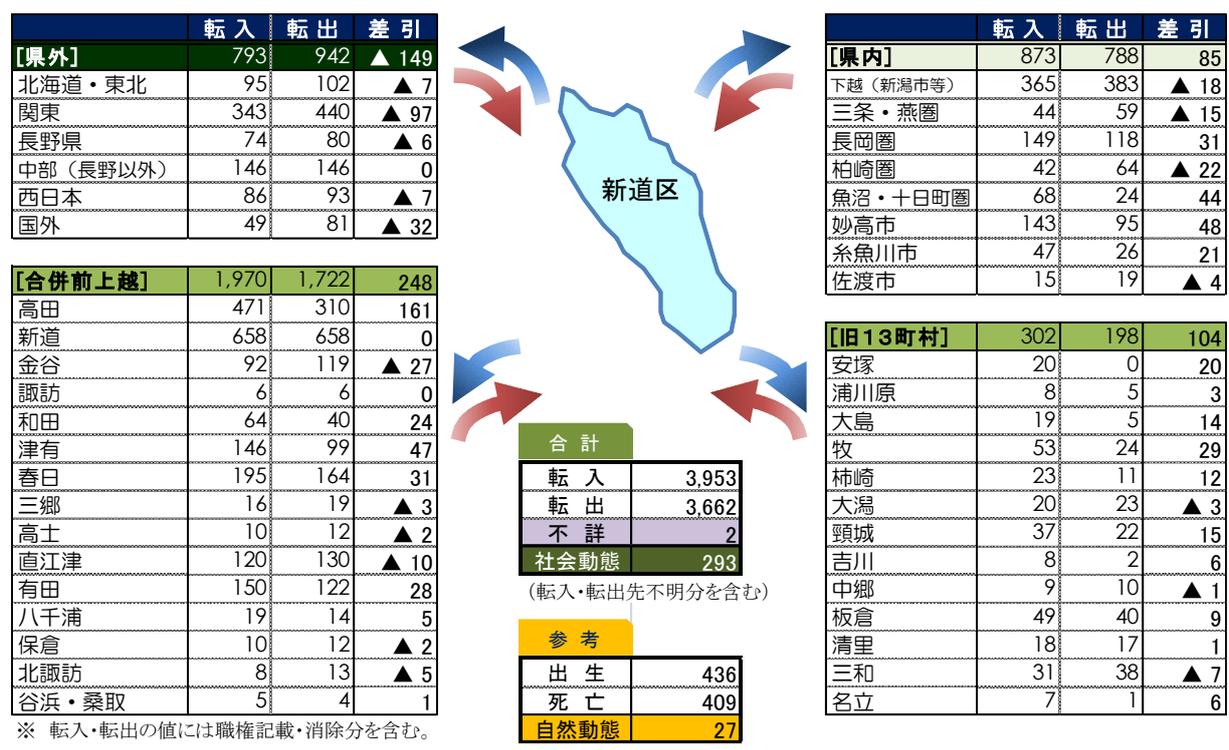
2010-2015



備考) ※は、5年前の5歳若い世代（すなわち同じ生まれ年のグループ）の人口と比較したもの。
資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

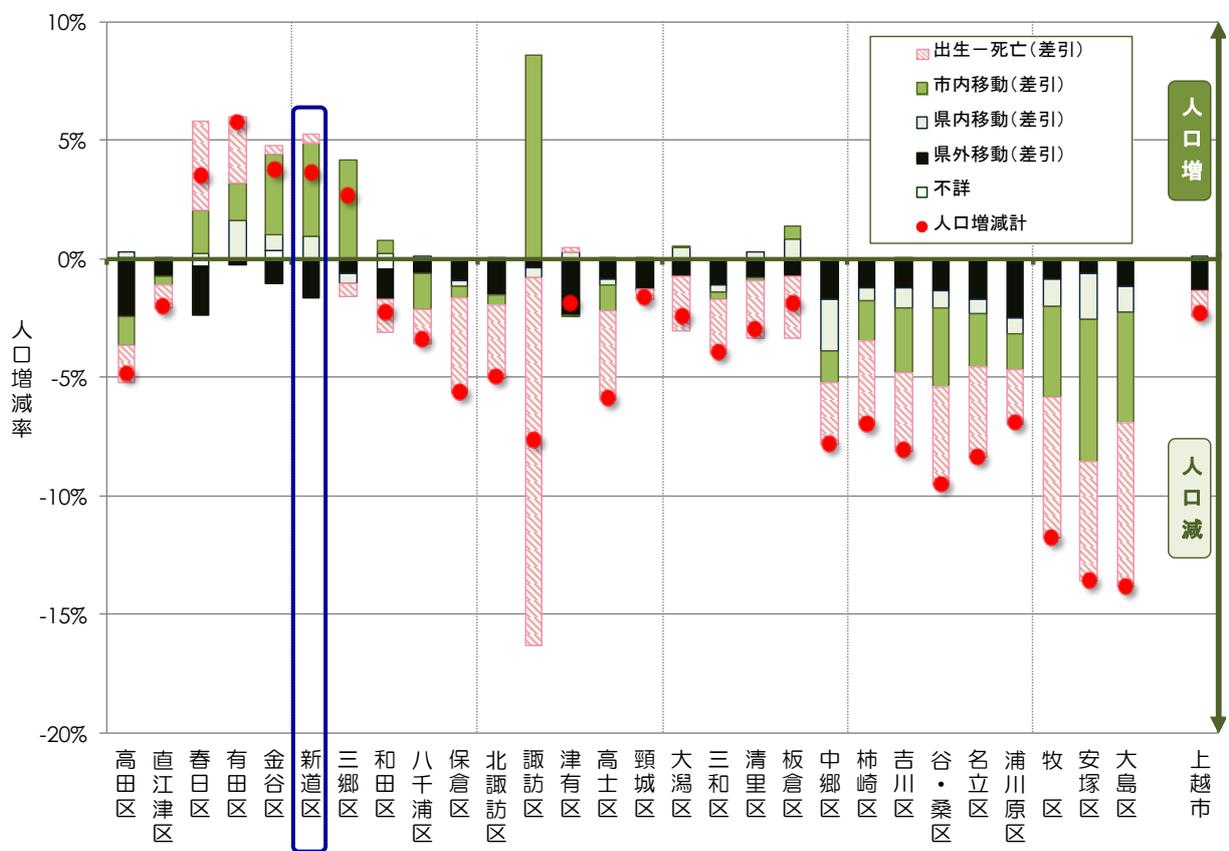
● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

図7 転入・転出先別にみた人口増減 新道区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

図8 人口増減の比較 市内28区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

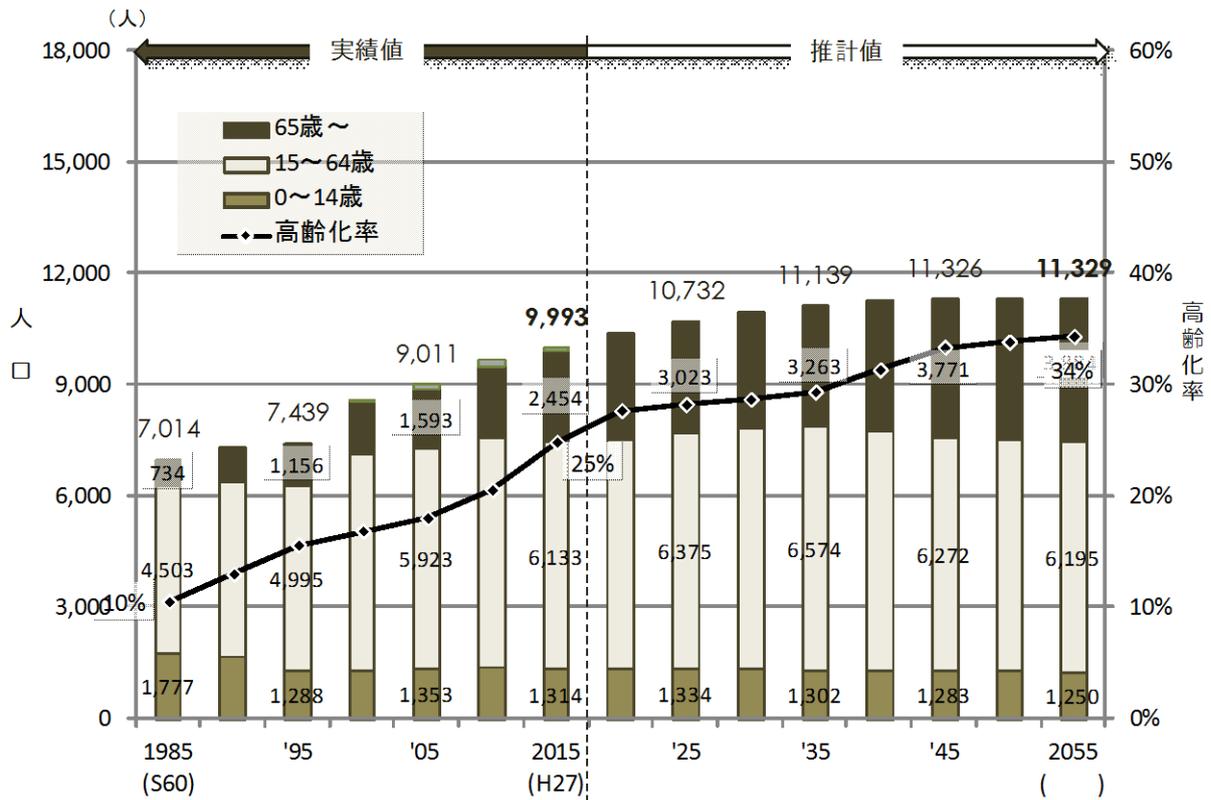
3 将来推計人口

● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し状況が変わるとどうか？

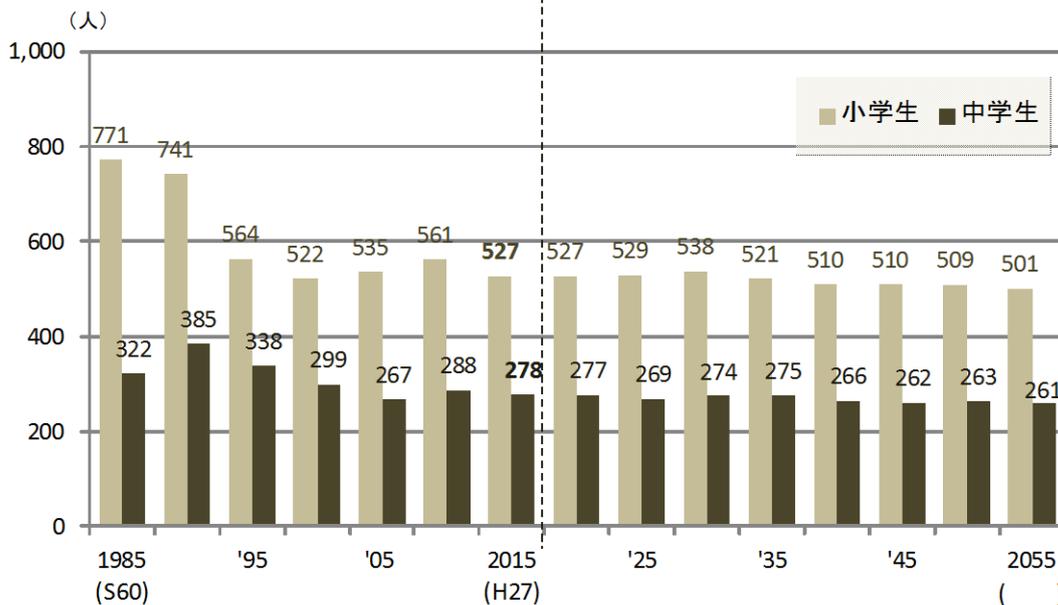
図9 シナリオ1 最近の傾向(※)が続いた場合の人口推移 新道区 ~2055

※ 年齢別人口増減(図6)の2005~15年における割合が今後も続くものとして推計

● 年齢3区分別 (1985実績 - 2055推計)



● 小・中学生人口 ※ (1985実績 - 2055推計)



備考) ※は5歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。
資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料を用いたコーホート変化率法による推計値をもとに作成

図 10

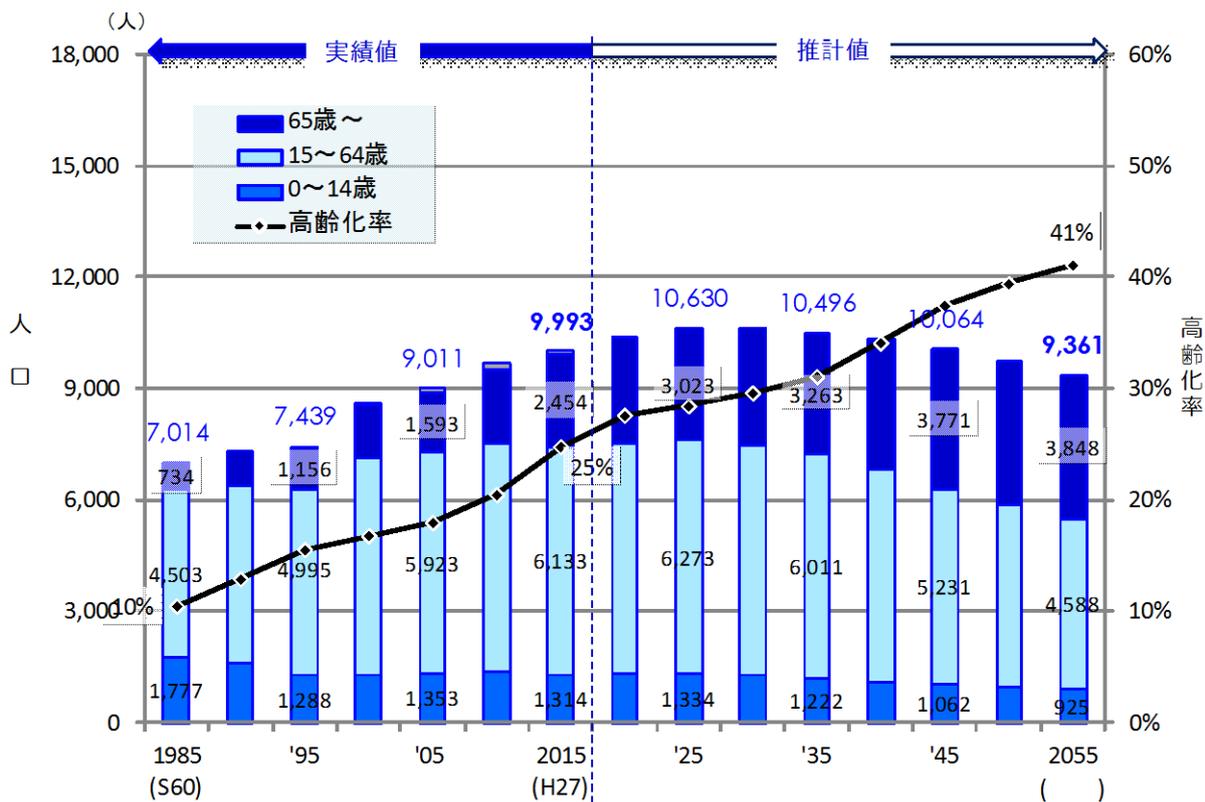
シナリオ 2 住宅開発が一段落した場合（※）の人口推移

新道区

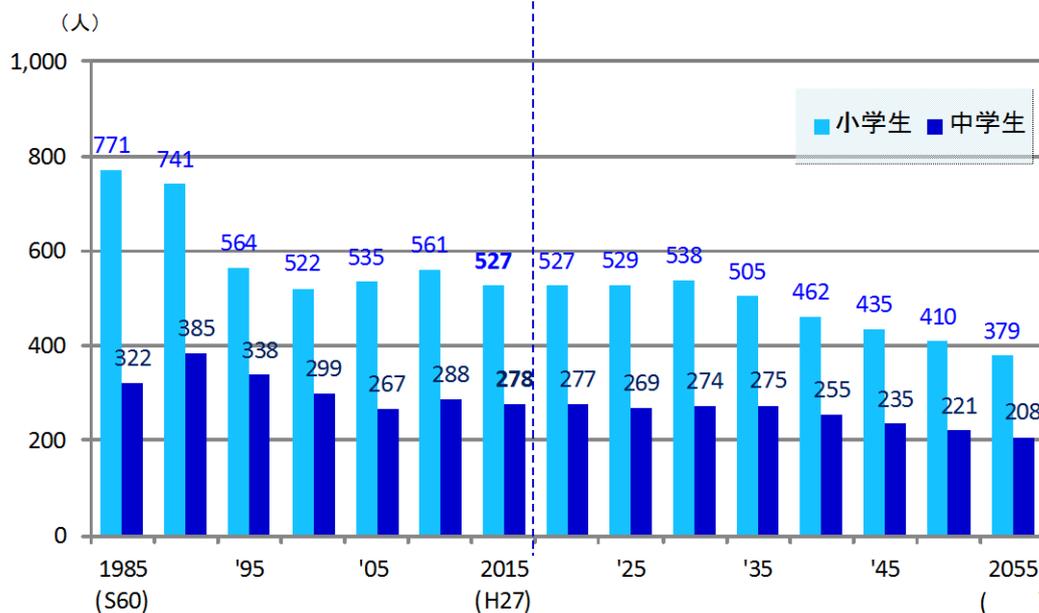
～2055

※ 2020 年までは、シナリオ 1 と同じ設定
 （年齢別人口増減（図 6）の 2005～15 年における割合が続くものとして推計）
 ※ 2021 年以降は、住宅開発が一段落して若年層の人口増加が弱まる場合を想定
 （20 代後半の人口増加率が現状よりも 20 ポイント減少、30 代の人口増加率が同 10 ポイント減少するものとして推計）

● 年齢 3 区分別 （1985 実績 - 2055 推計）



● 小・中学生人口 ※ （1985 実績 - 2055 推計）



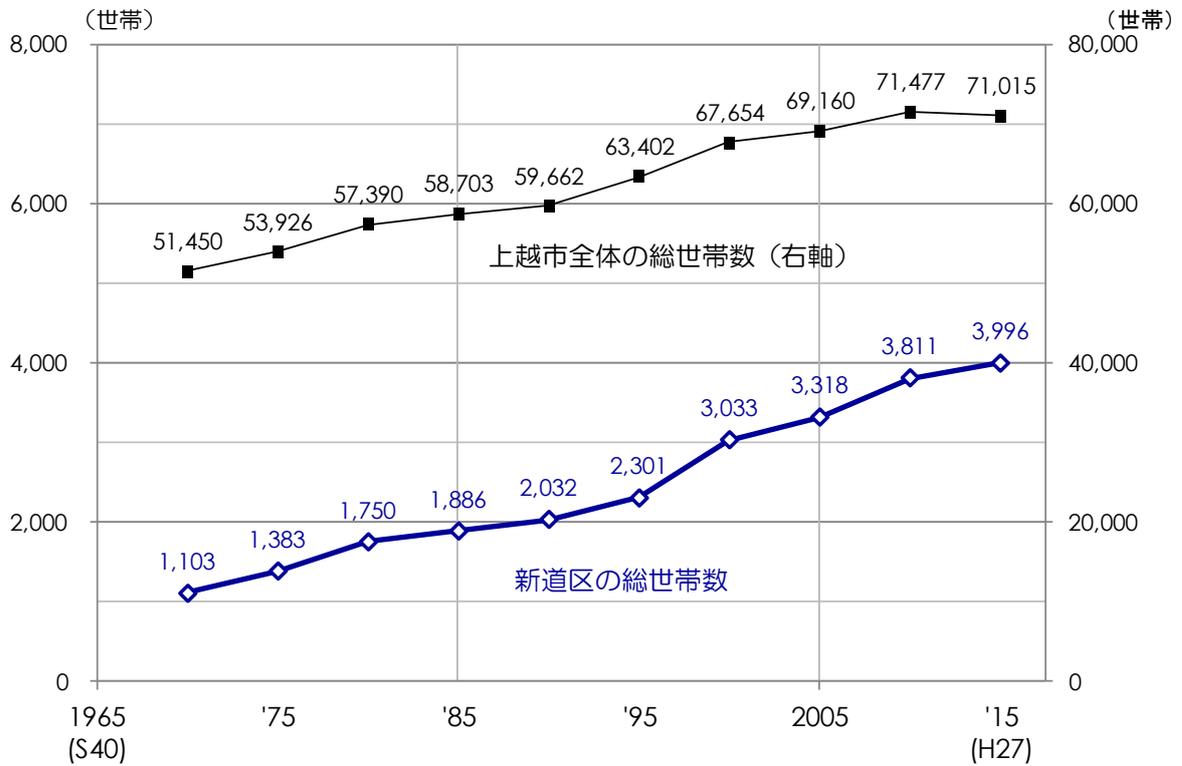
備考) ※は 5 歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。
 資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料を用いたコーホート変化率法による推計値をもとに作成

4 世帯数

● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

図 11 総世帯数の推移

新道区・上越市 1970~2015

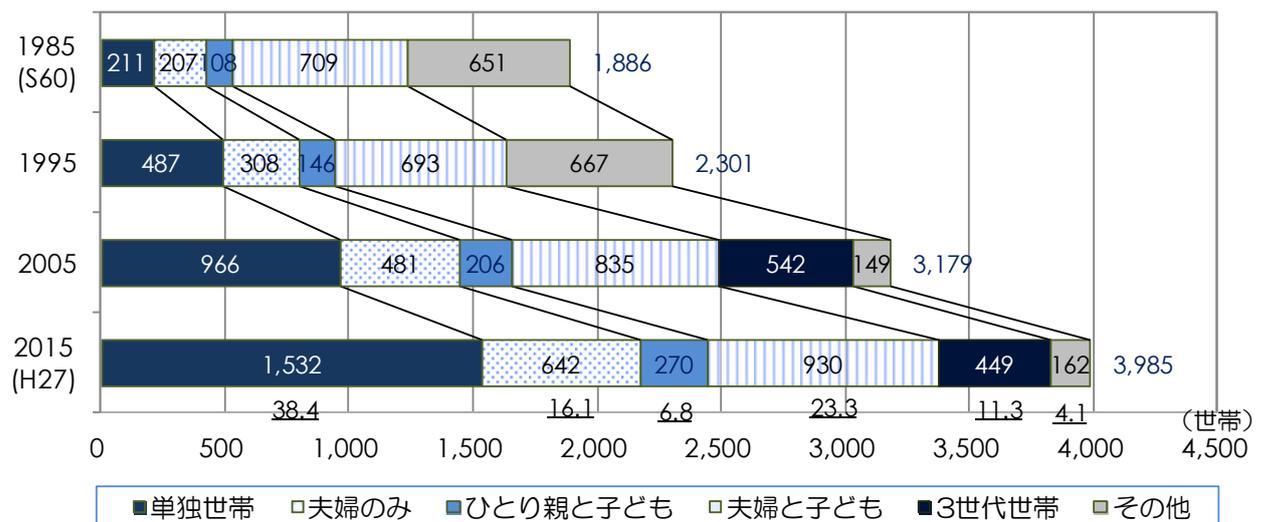


資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

図 12 世帯構成の推移

新道区 1985~2015



備考) 施設等の世帯(寮・病院・社会福祉施設など)を除く「一般世帯数」であり、合計値は「総世帯数」よりも若干少ない。1985, 1995年の3世代世帯は、「その他」に含まれる。

集計方法の制約上、数世帯程度の誤差が生じる場合もある(小地域集計の秘匿計算によるもの)。

2015年の棒グラフ下の数値は、全体に占める割合(%)を示す。

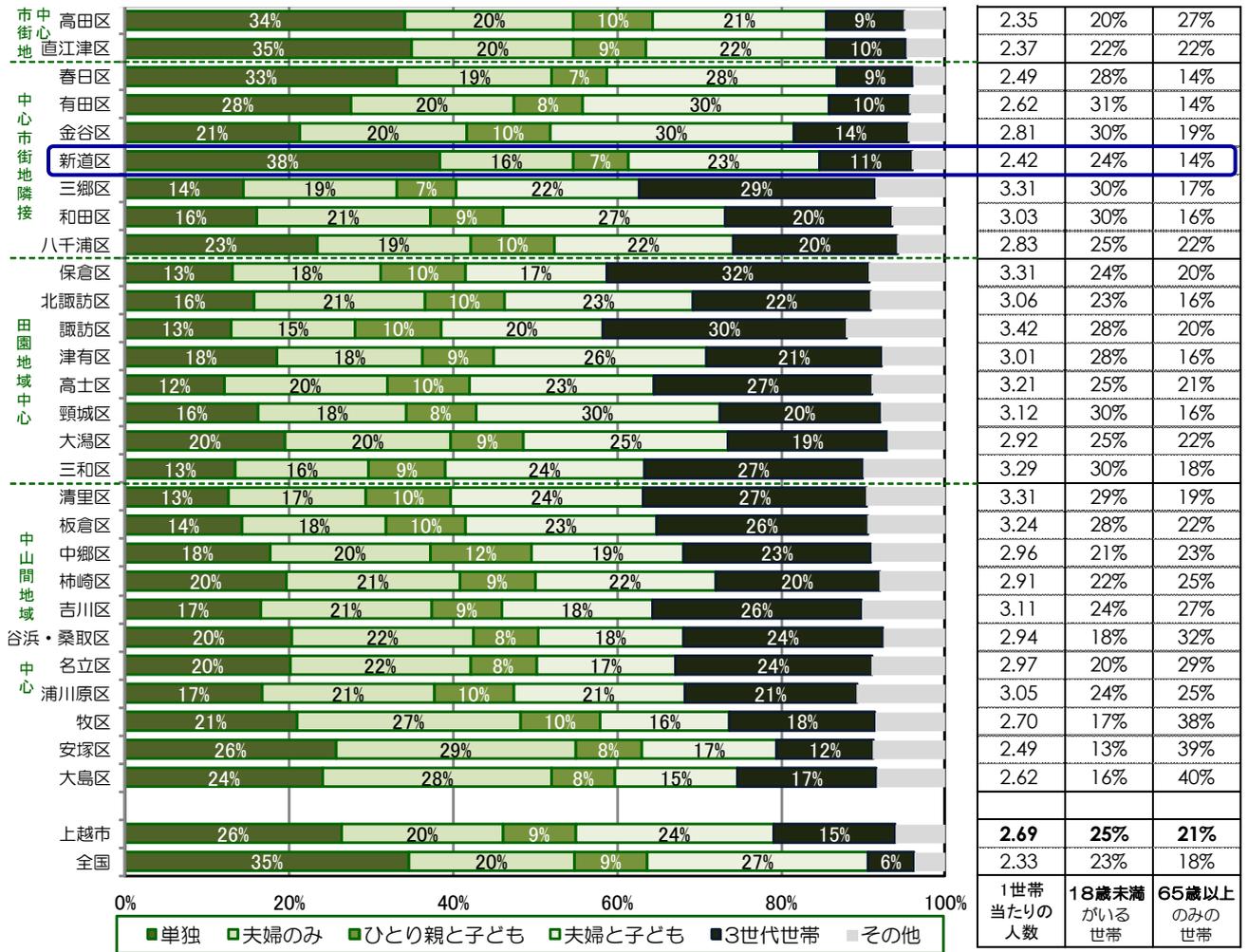
資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

図 13

世帯構成の比較

市内 28 区

2015



備考) 施設等の世帯(寮・病院・社会福祉施設など)を除く「一般世帯数」の内訳を示した。

資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

グループワーク（課題等の洗い出し）の結果

	改善の方向	南部地区	中部地区	北部地区
課題	通学路の安全確保	【道路】 ・県道板倉直江津線は、冬季は積雪で道路幅が狭まり、グリーンラインを隠してしまう。	—	【道路】 ・県道板倉直江津線が狭く、小学生の通学が危険である。 【街灯】 ・関川の堤防を通学に使っており、暗いため、中学生・高校生の通学（帰り）が心配である。
	交通の利便性の向上	【公共交通】 ・上越妙高駅行きのバス路線を検討してほしい。	—	【公共交通】 ・富岡線のバスの本数が少ない（冬は待ち時間が長い）。
	快適な生活環境の確保	【空き家】 ・空き家が増加しているが、狭隘な道路を拡幅しないと空き家の活用はなかなか進まない。	【環境衛生】 ・ごみの分別がされず、回収されないことが多々ある。 【騒音等】 ・国道 18 号線からの騒音がある。	【環境衛生】 ・路上にごみが目立つようになった。 【治安】 ・地域の急激な発展で治安の悪化が心配である。
	まちの活力の維持・向上	【町内会活動など】 ・アパートの住人が地域の行事・祭りごとに参加しない。	【町内会活動など】 ・コロナ禍の中でイベント等が中止になり、人と人との交流が少なくなっている。 ・町内会役員のなり手がなく、苦勞する。 ・高齢者が増えている。その中で、自分だけよければいいという考えの人がいる。 ・若者の消防への参加者が少なくなっている。 ・若者の減少により青年会の解散が取り沙汰されている。 【商業】 ・立町商店街（稲田 2 丁目）の活気（賑わい）がない。 【地域住民等によるまちづくり】 ・地域活動支援事業の提案が少ない。	【町内会活動など】 ・富岡地区の国際化に対応できる仕掛け、糸口を作っていくことが必要になる。
	子育て環境の充実	—	—	【公の施設】 ・子どもが小さい頃は児童館（子育てひろば）がたいへん助けになったので、なくなると今後は心配である。 ・芙蓉荘のあとに、子育て施設などのコミュニティ施設があればありがたい。
	災害等による被害の防止・軽減	【水害】 ・大雨のたびに道路冠水などのおそれがある。 ※下水道工事により、「古川」は将来的に必要ななくなるのでは。 ※新道地区として市等に揚水ポンプの整備を陳情（11/25）。	【水害】 ・水害の心配がある。 【災害時等の対応】 ・高齢者世帯が増え、緊急時の対応に不安がある。	—
	特長	—	・病院、スーパー、学校が近くにあり、利便性が高い。 ・新幹線駅や高速道路のインターチェンジが近く、交通の利便性が高い。 ・静かで暮らしやすい。 ・近隣の人たちが温厚で、よい人が多い。 ・河川敷で散歩やジョギングなどができる癒しのエリアがある。 ・周りに田んぼがあり、緑も多く残っている。 ・子ども（小・中学生）が多い（稲田 2 丁目）。 ・新鮮な食糧が手に入る。 ・神社仏閣がある。	・生活が非常に便利である。 ・かつての文化が続いているのが素晴らしい。

グループワークの結果を踏まえた今後の進め方（検討資料）

改善の方向	手順 1 協議会委員だけで考えてみる。				
	(資料 3-1) グループワークの結果	検討を進めるに当たって確認が必要と思われる事項	留意点	どんな取組があったらよいか？	地域協議会の関わり方は？
通学路の安全確保	【道路】 ・ 県道板倉直江津線は、冬季は積雪で道路幅が狭まり、グリーンラインを隠してしまう。[南部] ・ 県道板倉直江津線が狭く、小学生の通学が危険である。[北部]	・ 通学の状況（保護者の意向） ・ 沿線町内会、県道板倉直江津線改修促進協議会の取組状況 ・ 道路管理者の考え	・ 主たる関係者（町内会や改修促進協議会）が取組を行っている中で、どのように関わるか。		
	【街灯】 ・ 関川の堤防を通学に使っており、暗いため、中学生・高校生の通学（帰り）が心配である。[北部]	・ 学校における通学路の考え方 ・ 通学の状況（保護者の意向）	・ 堤防を通学路とすることの適否		
公共交通の利便性の向上	【公共交通】 ・ 上越妙高駅行きのバス路線を検討してほしい。[南部] ・ 富岡線のバスの本数が少ない(冬は待ち時間が長い)。[北部]	・ 利用実態、ニーズ ・ バス事業者、市の施策			
快適な生活環境の確保	【空き家】 ・ 空き家が増加しているが、狭隘な道路を拡幅しないと空き家の活用はなかなか進まない。[南部]	・ 空き家の状況、所有者の意向 ・ 地域（町内会）の意向 ・ 市の施策			
	【環境衛生】 ・ ごみの分別がされず、回収されないことが多々ある。[中部] ・ 路上にごみが目立つようになった。[北部]	・ 地域の意向			
	【騒音等】 ・ 国道 18 号線からの騒音がある。[中部]	・ 騒音の状況、地域の意向 ・ 道路管理者の考え			
	【治安】 ・ 地域の急激な発展で治安の悪化が心配である。[北部]	・ 地域（町内会）の意向 (参考)今ある取組：「富岡小学校区安全安心マップ作成事業」 (参考)他地区の取組：町内会による防犯パトロール事業			
まちの活力の維持・向上	【町内会活動など】 ・ アパートの住人が地域の行事・祭りごとに参加しない。[南部] ・ コロナ禍の中でイベント等が中止になり、人と人との交流が少なくなっている。[中部] ・ 町内会役員のなり手がなく、苦勞する。[中部] ・ 高齢者が増えている。その中で、自分だけよければいいという考えの人がいる。[中部] ・ 若者の消防への参加者が少なくなっている。[中部] ・ 若者の減少により青年会の解散が取り沙汰されている。[中部] ・ 富岡地区の国際化に対応できる仕掛け、糸口を作っていくことが必要になる。[北部]	(参考)今ある取組：「子安・とよば合同交流促進事業」 (参考)他地区の取組：振興会等による担い手育成を目的とした事業			

改善の方向	手順1 協議会委員だけで考えてみる。				
	(資料3-1) グループワークの結果	検討を進めるに当たって確認が必要と思われる事項	留意点	どんな取組があったらよいか？	地域協議会の関わり方は？
	【商業】 ・立町商店街（稲田2丁目）の活気（賑わい）がない。[中部]	・地域の意向	・地域として賑わいづくりに取り組む意向があるか。		
	【地域住民等によるまちづくり】 ・地域活動支援事業の提案が少ない。[中部]	・事業周知の状況 ・各種団体の考え	※地域活動支援事業の募集・審査の手順において協議（1月を予定）		
子育て環境の充実	【公の施設】 ・子どもが小さい頃は児童館（子育てひろば）がたいへん助けになったので、なくなると今後が心配である。[北部] ・芙蓉荘のあとに、子育て施設などのコミュニティ施設があればありがたい。[北部]	・保護者の意向、ニーズ ・市の施策			
災害等による被害の防止・軽減	【水害】 ・大雨のたびに道路冠水などのおそれがある。[北部] ※ 下水道工事により、「古川」は将来的に必要ななくなるのでは。 ※ 新道地区として市等に揚水ポンプの整備を陳情する（11/25）。 ・水害の心配がある。[中部]	・新道地区町内会長協議会（関係町内会長）の取組状況 ・河川管理者の考え	・主たる関係者（関係町内会長）が取組を行っている中で、どのように関わるか。		
	【災害時等の対応】 ・高齢者世帯が増え、緊急時の対応に不安がある。[中部]	・各町内会（自主防災組織等）の取組状況・意向 (参考)今ある取組:「稲田4丁目災害支援事業」「寺町内会自主防災組織事業」	・町内会の枠を越えた連携の要否など		
特長の維持・増進	【様々な特長】 ・病院や学校が近くにあり利便性がある。[南部] ・四季の変化があり生活がしやすい。[南部] ・病院、スーパー、学校が近くにあり、利便性が高い。[中部] ・新幹線駅や高速道路のインターチェンジが近く、交通の利便性が高い。[中部] ・静かで暮らしやすい。[中部] ・近隣の人たちが温厚で、よい人が多い。[中部] ・河川敷で散歩やジョギングなどができる癒しのエリアがある。[中部] ・周りに田んぼがあり、緑も多く残っている。[中部] ・子ども（小・中学生）が多い（稲田2丁目）。[中部] ・新鮮な食糧が手に入る。[中部] ・神社仏閣がある。[中部] ・生活が非常に便利である。[北部] ・かつての文化が続いているのがすばらしい。[北部]				